HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第7章　アイヌ文化の知識と体験
Author(s)	上山, 浩次郎
Citation	「調査と社会理論」研究報告書, 30, 113-135
Issue Date	2013-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52418
Type	departmental bulletin paper
File Information	AN00075302_30_7.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第７章　アイヌ文化の知識と体験

上山浩次郎｜北海道大学大学院教育学院博士後期課程

はじめに

本章では、新ひだかに住む和人の人々が、アイヌ文化とどのような関わりをもっているのかを明らかにする。新ひだかの和人は、アイヌ文化に関してどのような知識と体験をもっているのか。また、そうした知識と体験はどのような生活のなかで得たのか。さらに、そうした知識と体験をもとにしながら、現在のアイヌ文化をどのように評価し将来どのように関わろうとしているのだろうか。

アイヌ民族に関する研究において、アイヌ民族多住地域に住む和人に焦点が向けられることは少ない。たとえば、松本・江川編（2001）において、アイヌの人々の特徴を浮き彫りにするための比較対象としてとりあげられているにすぎない。それゆえ、アイヌ民族多住地域に住む和人がどのような生活を営んでいるのか十分に明らかにされているわけではない。

そこで、本章では、先に示した論点を検討することをとおして、アイヌ民族多住地域に住む和人が、アイヌの文化とどのような関わりを持ちながら生活しているのかを明らかにしたい。

ここで用いるデータは基本的には「地域住民の日常的な交流の実態とアイヌ文化・アイヌ政策に関する意識調査」（アンケート調査）である。その際、おもに和人の方を対象とした分析を行う。ただし、比較対象としてアイヌの方と判断できた対象者を用いて、和人の方の特徴を浮き彫りにすることも行う。

第１節　アイヌ文化に関する知識・体験

まずは、新ひだかに住む和人の人々が、アイヌ文化に関してどのような知識をもっているのかを検討しよう。表７－１と図７－１にそれを整理した。そこからは、まず、46.7％の住民がいずれかのアイヌ文化の内容を知っていると回答している。他方で、アイヌの人々はどの程度アイヌ文化の内容を知っているのだろうか。同じく表７－１をみよう。そこからは、54.5％の者がいずれかのアイヌ文化を知っていると回答していることがわかる。

ここで、和人かアイヌかという変数とアイヌ文化の知識をもっているかという変数をクロス分析し、そこからχ二乗値を計算して得られるp値を確認すると、そこでは有意（５％）な違いはみられない。とはいえ、これらからは、割合をみればアイヌの人々ほどではないものの、新ひだかの約半数の和人の人々が何がしかのアイヌ文化の知識をもっていると判断できる。

では、新ひだかに住む和人の人々は、具体的にどのようなアイヌ文化の知識をもっているのだろうか。同じく表７－１と図７－１を確認していくと、「カムイノミなどの祭事」が24.5％、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」が24.3％、「歌と踊り・楽器」が23.7％と、こうしたアイヌ文化に対して全体のうち２割程度の者が内容を知っていることがわかる。また、「アイヌ語」も14.2％とそれなりの者が内

容を知っていると回答している。

しかし、それらのうちの多くは、アイヌの人々が知っていると回答する割合よりも大きくはない。たとえば、「歌と踊り・楽器」は、和人で23.7%なのに対してアイヌの人々は31.8%となっており、「アイヌ語」も、和人で14.2%なのに対してアイヌの人々は18.2%となっている。また、「イナウを捧げる」に関しては、和人が4.1%にすぎないのに対して、アイヌの人々は18.2%となっており回答に大きな違いがみられる（１%有意)。

ただし、和人の人々の方が知っているアイヌ文化も存在している。それは、「工芸（編み物・刺繍・織物･木彫)」であり、アイヌの人々が13.6%にすぎないのに対して、和人の人々は24.3%となっている。

とはいえ、基本的には、新ひだかに住む和人の人々は、アイヌの人々よりもアイヌ文化を知っているとはいえないだろう。

以上の点をふまえて、和人の人々についてより詳細に確認していこう。まずは、アイヌ文化の知識について男女の違いはあるのだろうか。表７－２と図７－２をみよう。そこには、これまで確認してきたアイヌ文化の項目を男女別に整理してある。

それによると、「カムイノミなどの祭事」「伝統的な葬儀・先祖供養」「アイヌ語」などで男女差がみられる。具体的には、それぞれ男性の方がそうしたアイヌ文化を回答しやすい。ただし、「カムイノミなどの祭事」「アイヌ語」は10%有意でしかない。そのうえ、その他の多くのアイヌ文化においては男女差がみられないと判断できる。こうしてみれば、先に確認した新ひだか住民のアイヌ文化の知識の状況は、男女差がそれほどみられないと判断することが妥当だろう。

表７－１　アイヌ文化の知識（和人・アイヌ）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トウス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	和人	124	17	32	21	19	16	4	5	72	34	120	123	41	25	3	237	507
	アイヌ	6	1	1	4	2	0	0	1	4	0	7	3	2	2	0	12	22
	合計	130	18	33	25	21	16	4	6	76	34	127	126	43	27	3	249	529
割合	和人	24.5%	3.4%	6.3%	4.1%	3.7%	3.2%	0.8%	1.0%	14.2%	6.7%	23.7%	24.3%	8.1%	4.9%	0.6%	46.7%	100.0%
	アイヌ	27.3%	4.5%	4.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	4.5%	18.2%	0.0%	31.8%	13.6%	9.1%	9.1%	0.0%	54.5%	100.0%
	合計	24.6%	3.4%	6.2%	4.7%	4.0%	3.0%	0.8%	1.1%	14.4%	6.4%	24.0%	23.8%	8.1%	5.1%	0.6%	47.1%	100.0%
χ二乗：p値					0.002													

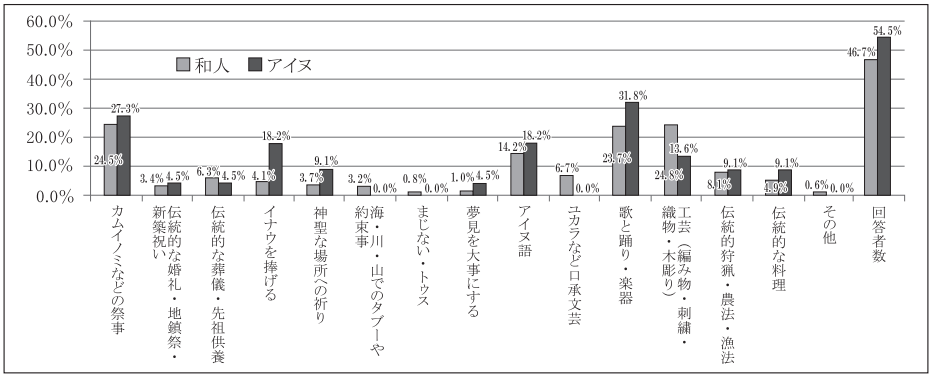


図７－１　アイヌ文化の知識（和人・アイヌ）

表７－２　アイヌ文化の知識（和人）（男女別）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トウス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	男	66	8	20	10	7	8	3	1	40	17	52	51	21	11	2	115	238
	女	57	8	11	10	11	7	1	3	31	16	67	71	19	13	1	121	268
	合計	123	16	31	20	18	15	4	4	71	33	119	122	40	24	3	236	506
割合	男	27.7%	3.4%	8.4%	4.2%	2.9%	3.4%	1.3%	0.4%	16.8%	7.1%	21.8%	21.4%	8.8%	4.6%	0.8%	48.3%	100.0%
	女	21.3%	3.0%	4.1%	3.7%	4.1%	2.6%	0.4%	1.1%	11.6%	6.0%	25.0%	26.5%	7.1%	4.9%	0.4%	45.1%	100.0%
	合計	24.3%	3.2%	6.1%	4.0%	3.6%	3.0%	0.8%	0.8%	14.0%	6.5%	23.5%	24.1%	7.9%	4.7%	0.6%	46.6%	100.0%
χ二乗：p値		0.091		0.044						0.090								

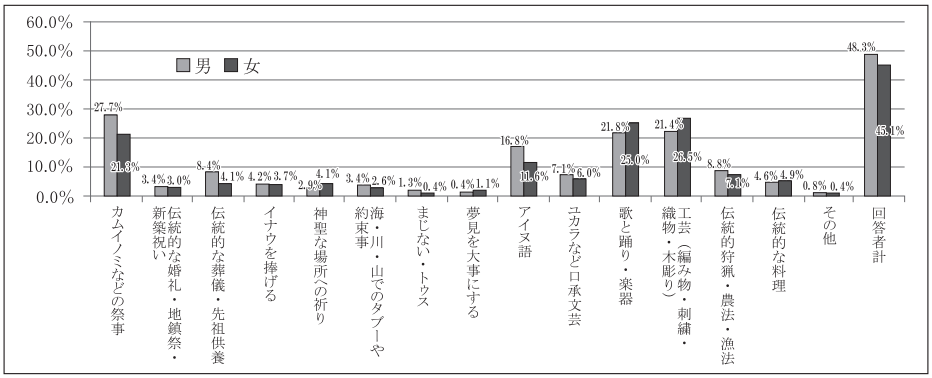


図７－２　アイヌ文化の知識（和人）（男女別）

表７－３　アイヌ文化の知識（和人）（世代別）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トウス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	青年層	12	0	0	2	1	2	0	0	17	4	15	24	8	3	1	34	86
	壮年層	42	4	12	5	7	3	2	1	28	13	54	44	14	10	2	85	186
	老年層	67	11	18	12	10	9	2	2	24	16	50	52	18	10	0	114	230
	合計	121	15	30	19	18	14	4	3	69	33	119	120	40	23	3	233	502
割合	青年層	14.0%	0.0%	0.0%	2.3%	1.2%	2.3%	0.0%	0.0%	19.8%	4.7%	17.4%	27.9%	9.3%	3.5%	1.2%	39.5%	100.0%
	壮年層	22.6%	2.2%	6.5%	2.7%	3.8%	1.6%	1.1%	0.5%	15.1%	7.0%	29.0%	23.7%	7.5%	5.4%	1.1%	45.7%	100.0%
	老年層	29.1%	4.8%	7.8%	5.2%	4.3%	3.9%	0.9%	0.9%	10.4%	7.0%	21.7%	22.6%	7.8%	4.3%	0.0%	49.6%	100.0%
	合計	24.1%	3.0%	6.0%	3.8%	3.6%	2.8%	0.8%	0.6%	13.7%	6.6%	23.7%	23.9%	8.0%	4.6%	0.6%	46.4%	100.0%
χ二乗：p値		0.016	0.059	0.031						0.081		0.072						

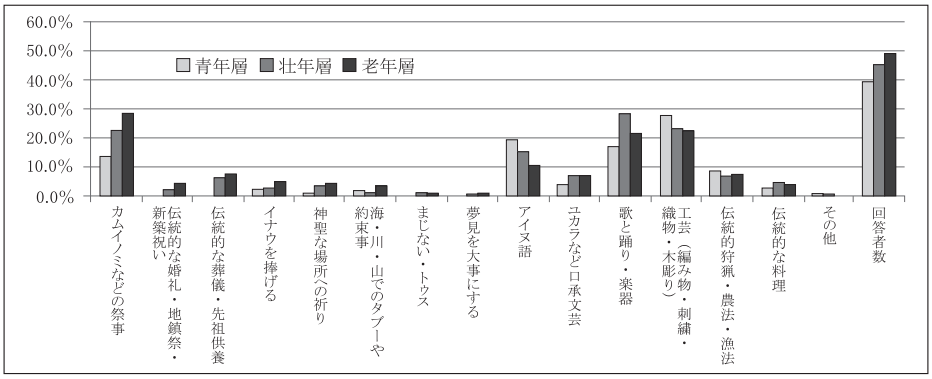


図７－３　アイヌ文化の知識（和人）（世代別）

ただし、世代別にみると、回答傾向に大きな違いがみられる。表７－３と図７－３をみよう。そこには、これまで確認してきたアイヌ文化の知識を世代別に整理してある。具体的には、「青年層（20～30歳代)」「壮年層（40～50歳代)」「老年層（60歳代以上)」の３つの世代に区分した。

まず、そもそもアイヌ文化の内容を知っていると回答する者が世代間で異なっている。すなわち、有意ではないものの、「青年層」で39.5%、「壮年層」で45.7%、「老年層」で49.6%と、世代が高くなるにつれて回答率が大きくなっている。ここからは、古い世代ほどアイヌ文化の知識を知っていることがわかる。

この点を反映して、各個別のアイヌ文化の知識の状況も、多くの場合、高年齢の者ほどそうしたアイヌ文化を知っていると回答している。たとえば、「カムイノミなどの祭事」をみると、「青年層」で14.0%、「壮年層」で22.6%、「老年層」で29.1%となっている（５%有意)。また、「伝統的な葬儀・先祖供養」でも「青年層」で0.0%、「壮年層」で6.5%、「老年層」で7.8%となっている（５%有意)。その他、χ二乗値からみれば差があるとはいいがたいものの、割合を比較すれば高い世代ほど高い回答率を示すアイヌ文化が多くみられる。

だが、若い世代ほど知っていると回答しているアイヌ文化も存在している。同じく表７－３と図７－３から、たとえば、「アイヌ語」をみると、「青年層」で19.8%、「壮年層」で15.1%、「老年層」で10.4%となっている（10%有意)。また、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫)」をみると、「青年層」で27.9%、「壮年層」で23.7%、「老年層」で22.6%となっている。他方で、「歌と踊り･楽器」では、「青年層」で17.4%、「壮年層」で29.0%、「老年層」で21.7%と（10%有意)、中間の世代である「壮年層」でもっとも回答率が高いアイヌ文化も存在している。

こうしたアイヌ文化の知識の状況をふまえて、次に、新ひだかの和人の人々が、実際にどのようなアイヌ文化を体験したことがあるのかを検討しよう。表７－４と図７－４にそれを整理した。そこから、まず、何らかのアイヌ文化を体験している者が13.8%であり、アイヌ文化を知っていると回答した者が約半数いた点を踏まえると、アイヌ文化を体験した者はそれほど多くみられないことがわかる。すなわち、新ひだかに住む和人の人々のおおよそ１割程度の者しか、実際にアイヌ文化を体験していないのである。

他方で、アイヌの人々がどの程度アイヌ文化を体験しているかといえば、18.2%の者が何がしかのアイヌ文化を体験していることがわかる。すなわち、新ひだかに住むアイヌの人々のおおよそ２割の者がアイヌ文化を体験している。しかし、和人と同様、アイヌ文化を知っている者と比べればそれほど大きなものとはいえない点には注意しよう。とはいえ、ここからは、新ひだかの和人は、クロス分析した際に得られるχ二乗値は有意ではないもののアイヌの人々よりもアイヌ文化を体験していないことがわかる。

では、和人の人々は、どういったアイヌ文化を体験しているのだろうか。表７－４と図７－４を確認すると、「歌と踊り・楽器」が6.3%、「カムイノミなどの祭事」が5.9%と相対的に多くみられる。ただし、それ以外のアイヌ文化は、おおよそ２%ほどの回答しかなく、その意味で、多くの新ひだか住民の和人はアイヌ文化を体験しているとはいえない。

表７－４　アイヌ文化の体験（和人・アイヌ）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トウス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	和人	30	9	10	6	6	4	1	0	10	10	32	12	6	13	2	70	507
	アイヌ	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	2	2	0	1	0	4	22
	合計	31	9	11	7	6	5	1	0	11	10	34	14	6	14	2	74	529
割合	和人	5.9%	1.8%	2.0%	1.2%	1.2%	0.8%	0.2%	0.0%	2.0%	2.0%	6.3%	2.4%	1.2%	2.6%	0.4%	13.8%	100.0%
	アイヌ	4.5%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	4.5%	0.0%	18.2%	100.0%
	合計	5.9%	1.7%	2.1%	1.3%	1.1%	0.9%	0.2%	0.0%	2.1%	1.9%	6.4%	2.6%	1.1%	2.6%	0.4%	14.0%	100.0%
χ二乗：p値		0.075										0.054						

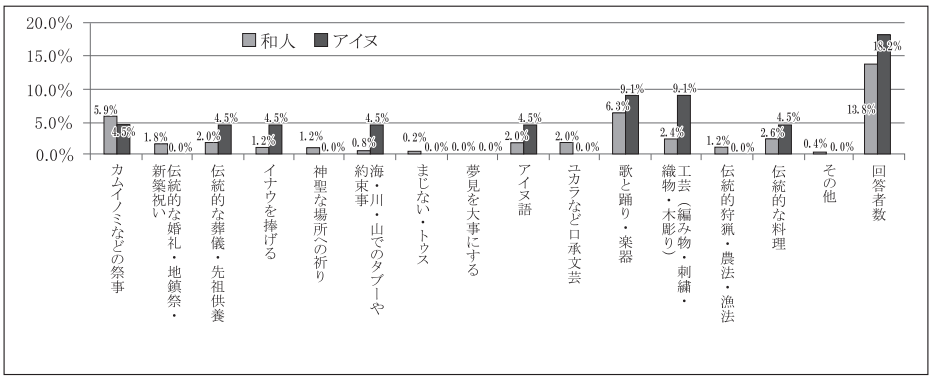


図７－４　アイヌ文化の体験（和人・アイヌ）

また、和人とアイヌの人々を比べると、たとえば「カムイノミなどの祭事」では和人で5.9%、アイヌの人々で4.5%となっている。しかし、それ以外の多くの項目でアイヌの人々ほど体験している割合が高い。ここからも、アイヌの人々と比べた場合、新ひだかの和人の人々はそれほどアイヌ文化を体験しているとはいえないだろう。

続けて、和人の人々の特徴をより細かくみていこう。まず、アイヌ文化の体験に関して男女の違いはみられるのだろうか。表７－５には、表７－１と同様の手順で算出したχ二乗値（のp値）を整理してある。そこからは、「カムイノミなどの祭事」で男性の回答率が高いものの（10%有意）、その他のアイヌ文化では男女差があると判断することができない。

ただし、先ほど確認したアイヌ文化に関する知識の状況を反映し、アイヌ文化の体験についても、世代間で違いがみられる。表７－６と図７－６をみよう。そこからは、年齢が低いほどアイヌ文化を体験していないことがわかる。はじめに、そもそもアイヌ文化を体験している人の割合をみると、「青年層」で5.8%、「壮年層」で13.4%、「老年層」で17.4%となっており（１%有意）、世代が低いほど、アイヌ文化を体験していない。

さらに、同じく表７－６と図７－６からアイヌ文化を個別にみると、多くのアイヌ文化で年齢が低くなるほど、そのアイヌ文化を体験していない者の割合が高くなっている。そのうえ、そもそも、もっとも若い世代である「青年層」においては、体験している者がまったくいないアイヌ文化が多い。実際、「青年層」では、「アイヌ語」「歌と踊り・楽器」「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」という３つのアイヌ文化しか体験されていないのである。

表７－５　アイヌ文化の体験（和人）（男女別）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トウス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	男	19	5	6	3	3	2	1	0	5	4	18	5	4	7	1	38	238
	女	11	4	4	3	3	2	0	0	5	6	14	7	2	6	1	32	268
	合計	30	9	10	6	6	4	1	0	10	10	32	12	6	13	2	70	506
割合	男	8.0%	2.1%	2.5%	1.3%	1.3%	0.8%	0.4%	0.0%	2.1%	1.7%	7.6%	2.1%	1.7%	2.9%	0.4%	16.0%	100.0%
	女	4.1%	1.5%	1.5%	1.1%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	1.9%	2.2%	5.2%	2.6%	0.7%	2.2%	0.4%	11.9%	100.0%
	合計	5.9%	1.8%	2.0%	1.2%	1.2%	0.8%	0.2%	0.0%	2.0%	2.0%	6.3%	2.4%	1.2%	2.6%	0.4%	13.8%	100.0%
χ二乗：p値		0.065																

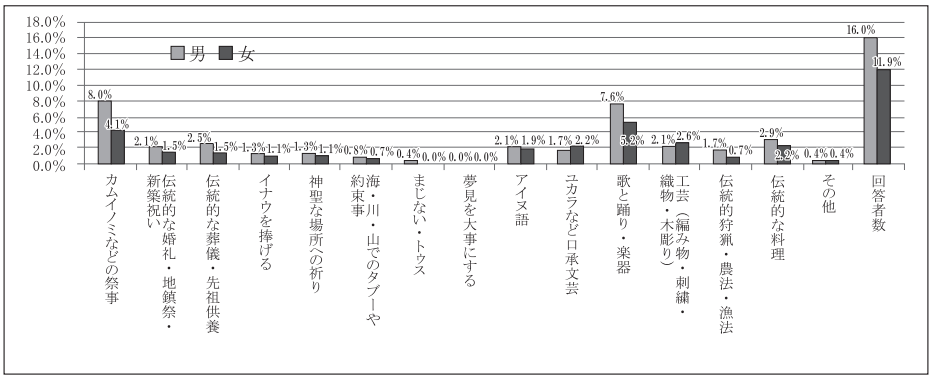


図７－５　アイヌ文化の体験（和人）（男女別）

表７－６　アイヌ文化の体験（和人）（世代別）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トウス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	青年層	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	1	0	0	0	5	86
	壮年層	11	0	1	1	1	1	0	0	5	5	15	4	3	4	1	25	186
	老年層	19	9	9	5	5	3	1	0	3	5	12	7	3	9	1	40	230
	合計	30	9	10	6	6	4	1	0	10	10	32	12	6	13	2	70	502
割合	青年層	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	5.8%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	100.0%
	壮年層	5.9%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	2.7%	2.7%	8.1%	2.2%	1.6%	2.2%	0.5%	13.4%	100.0%
	老年層	8.3%	3.9%	3.9%	2.2%	2.2%	1.3%	0.4%	0.0%	1.3%	2.2%	5.2%	3.0%	1.3%	3.9%	0.4%	17.4%	100.0%
	合計	6.0%	1.8%	2.0%	1.2%	1.2%	0.8%	0.2%	0.0%	2.0%	2.0%	6.4%	2.4%	1.2%	2.6%	0.4%	13.9%	100.0%
χ二乗：p値		0.022	0.004	0.017													0.008	

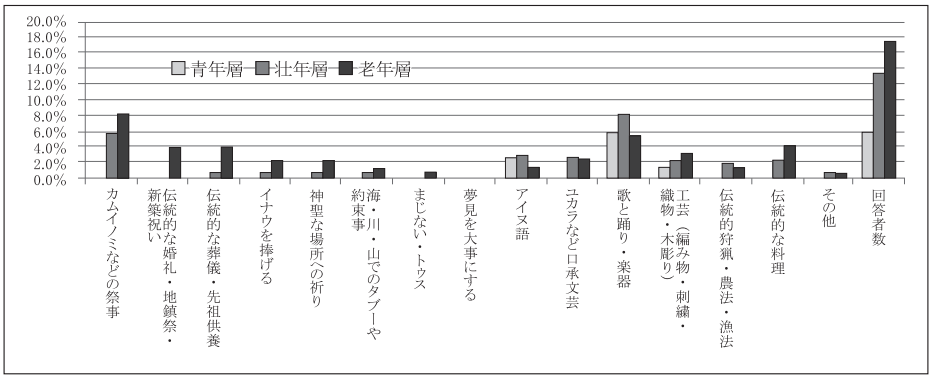


図７－６　アイヌ文化の体験（和人）（世代別）

こうしてみれば、新ひだかに住む和人の人々は、年齢が低くなるほど、体験するアイヌ文化の幅が狭くなるだけでなく、そうしたアイヌ文化を体験する確率が低くなると整理することができる。

ところで、新ひだかには、アイヌ文化に関連する施設や行事がいくつか存在している。では、そうした施設や行事に、新ひだかの和人の人々はどの程度関わりを持っているのだろうか。表７－７と図７－７をみよう。まず、いずれか１つでも施設に行ったり、行事に参加したりしたことがある者をみると66.9%となっている。具体的な施設や行事を確認すると、「シャクシャイン記念館」が56.4%、「アイヌ民俗資料館」が42.4%、「シャクシャイン法要祭」が17.2%となっている。

表７－７　新ひだかの施設や行事（和人とアイヌ）

		シャクシャイン記念館	アイヌ民俗資料館	シャクシャイン法要祭	回答者数	全体
度数	和人	286	215	87	339	507
	アイヌ	14	11	8	18	22
	合計	300	226	95	357	529
割合	和人	56.4%	42.4%	17.2%	66.9%	100.0%
	アイヌ	63.6%	50.0%	36.4%	81.8%	100.0%
	合計	56.7%	42.7%	18.0%	67.5%	100.0%
χ二乗：p値				0.022		

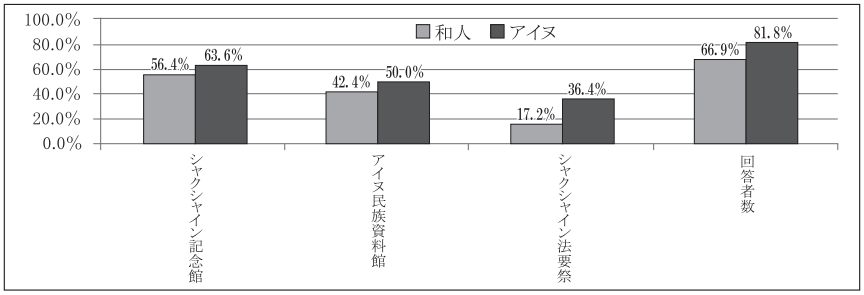


図７－７　新ひだかの施設や行事（和人とアイヌ）

表７－８　新ひだかの施設や行事（和人）（世代別）

		シャクシャイン記念館	アイヌ民俗資料館	シャクシャイン法要祭	回答者数	全体
度数	青年層	31	32	6	44	86
	壮年層	111	71	22	123	186
	老年層	141	110	57	169	230
	合計	283	213	85	336	502
割合	青年層	36.0%	37.2%	7.0%	51.2%	100.0%
	壮年層	59.7%	38.2%	11.8%	66.1%	100.0%
	老年層	61.3%	47.8%	24.8%	73.5%	100.0%
	合計	56.4%	42.4%	16.9%	66.9%	100.0%
χ二乗：p値		0.000	0.079	0.000	0.000	

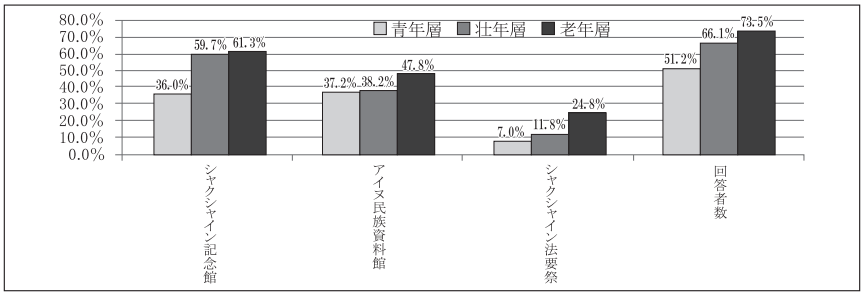


図７－８　新ひだかの施設や行事（和人）（世代別）

他方で、アイヌの人々は、いずれの施設や行事に関しても和人の人々よりも回答する者の割合が高い。具体的には、「シャクシャイン記念館」が63.6%、「アイヌ民俗資料館」が50.0%、「シャクシャイン法要祭」が36.4%となっている。とくに、「シャクシャイン法要祭」に関しては有意な違い（５%水準）がみられる。

その上で、和人の人々の回答をより詳細に確認していくと、ここからも世代によってアイヌ文化の体験の程度に異なりがみられることがわかる[1)]。表７－８と図７－８をみよう。まず、いずれか１つでも施設に行ったり、行事に参加したりしたことがある者をみると、「青年層」で51.2%、「壮年層」で66.1%、「老年層」で73.5%となっている。続けて、施設や行事を具体的に確認すると、いずれの施設や行事においても年齢が高くなるほど回答率が大きくなっている。ここからも、世代が高い者ほどアイヌ文化を体験していると判断できよう。

第２節　生活史のなかのアイヌ文化

それでは、先に確認してきたアイヌ文化の知識・体験は、どのような過程で得られたものなのだろうか。はじめに、前節で確認したアイヌ文化の知識をどのような経緯で得たのかという点から検討しよう。表７－９と図７－９をみよう。そこには、前節で確認したアイヌ文化をどこで（誰から）得たのかを整理してある。

それによれば、アイヌ文化の内容を知らないと回答した者を含めた全体のうち、25.2%の和人の者が「施設や展示物」を通してアイヌ文化を知ったと回答していることがわかる。ここでいう「施設や展示物」は、おそらく先にみた「シャクシャイン記念館」などを示していよう。続けて、「情報メディア」が17.9%、「アイヌ文化を普及している団体」が12.6%などと相対的に多くみられ、それらをきっかけにアイヌ文化の知識を得たことがわかる。

表７－９　アイヌ文化の情報源（和人・アイヌ）

		家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア	施設や展示物	その他	回答者計	全体
度数	和人	29	40	41	32	64	91	128	10	253	507
	アイヌ	4	3	2	0	4	3	3	1	12	22
	合計	33	43	43	32	68	94	131	11	265	529
割合	和人	5.7%	7.9%	8.1%	6.3%	12.6%	17.9%	25.2%	2.0%	49.9%	100.0%
	アイヌ	18.2%	13.6%	9.1%	0.0%	18.2%	13.6%	13.6%	4.5%	54.5%	100.0%
	合計	6.2%	8.1%	8.1%	6.0%	12.9%	17.8%	24.8%	2.1%	50.1%	100.0%
χ二乗：p値		0.018									

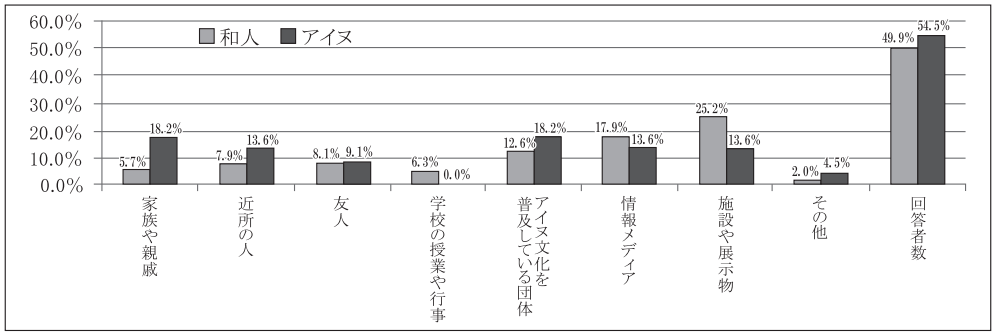


図７－９　アイヌ文化の情報源（和人・アイヌ）

ここで、アイヌの人々がどのような経緯でアイヌ文化を得たのかを確認すると、和人の人々が多く回答していた「施設や展示物」は13.6%、「情報メディア」は13.6%と回答する者が少ない。他方で、和人で回答する者が少なかった「家族や親族」が18.2%、「近所の人」が13.6%とそれなりの回答がみられる。また、「学校の授業や行事」と回答するものがアイヌの人々ではまったくみられない。

以上をみれば、和人の人々は、アイヌの人々と比べて、施設や展示物さらに情報メディアなどのいわば「フォーマルな」経路でアイヌ文化の知識を得てきた特徴があるといえよう。他方で、アイヌの人々は、和人と比べれば、家族や親族さらに近所などのいわば「パーソナルな」経路でアイヌ文化の知識を得てきたといえる。

これらをふまえて、和人の人々の回答をより詳細にみていこう。ただし、表７－10と図７－10からわかるようにここでも男女差はみられない。表７－１で示したものと同様の手順で、χ二乗値（のp値）を算出したが、いずれも有意な違いはみられなかった。

しかし、ここにおいても世代差がみられる。表７－11と図７－11をみよう。そこからは、いくつか項目において、年齢が高いほど、提示した選択肢を情報源としている者の割合が多いことがわかる。たとえば、「近所の人」をアイヌ文化の情報源とする人をみると、「青年層」で3.5%、「壮年層」で4.8%、「老年層」で11.7%となっている（１%水準）。

とはいえ、それほど世代差がみられない項目もある。たとえば、「施設や展示物」では、「青年層」で26.7%、「壮年層」で22.0%、「老年層」で27.0%と世代間で大きな違いがみられない。また、「情報メディア」でも、「青年層」で17.4%、「壮年層」で19.4%、「老年層」で16.5%となっている。

さらに、若い世代ほど情報源として回答している項目もある。それは、「学校の授業や行事」である。具体的に値を確認すると、「青年層」で20.9%、「壮年層」で5.4%、「老年層」で1.7%となっており、若い世代ほど、「学校の授業や行事」からアイヌ文化の情報を得ている者の割合が多いことがわかる。

表７－10　アイヌ文化の情報源（和人）（男女計・男女別）

		家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア	施設や展示物	その他	回答者数	全体
度数	男	14	20	23	13	35	49	57	4	125	238
	女	15	20	18	19	29	41	70	6	127	268
	合計	29	40	41	32	64	90	127	10	252	506
割合	男	5.9%	8.4%	9.7%	5.5%	14.7%	20.6%	23.9%	1.7%	52.5%	100.0%
	女	5.6%	7.5%	6.7%	7.1%	10.8%	15.3%	26.1%	2.2%	47.4%	100.0%
	合計	5.7%	7.9%	8.1%	6.3%	12.6%	17.8%	25.1%	2.0%	49.8%	100.0%
χ二乗：p値											

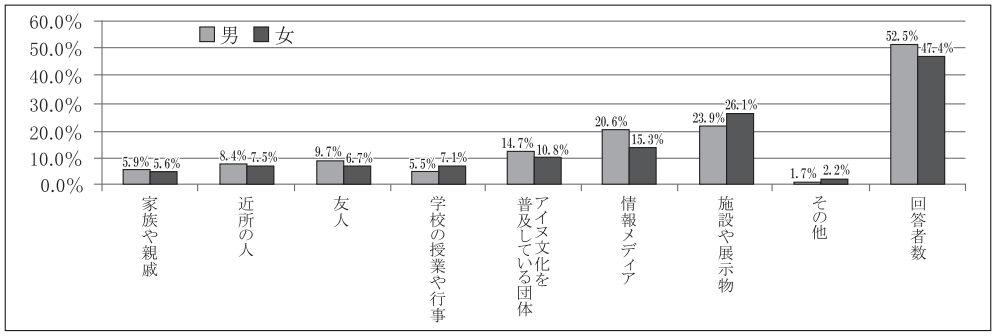


図７－10　アイヌ文化の情報源（和人）（男女計）

表７－11　アイヌ文化の情報源（和人）(世代別)

		家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア	施設や展示物	その他	回答者数	全体
度数	青年層	4	3	4	18	4	15	23	0	36	86
	壮年層	8	9	12	10	24	36	41	6	87	186
	老年層	16	27	25	4	35	38	62	4	126	230
	合計	28	39	41	32	63	89	126	10	249	502
割合	青年層	4.7%	3.5%	4.7%	20.9%	4.7%	17.4%	26.7%	0.0%	41.9%	100.0%
	壮年層	4.3%	4.8%	6.5%	5.4%	12.9%	19.4%	22.0%	3.2%	46.8%	100.0%
	老年層	7.0%	11.7%	10.9%	1.7%	15.2%	16.5%	27.0%	1.7%	54.8%	100.0%
	合計	5.6%	7.8%	8.2%	6.4%	12.5%	17.7%	25.1%	2.0%	49.6%	100.0%
χ二乗：p値			0.009		0.000	0.041				0.023	

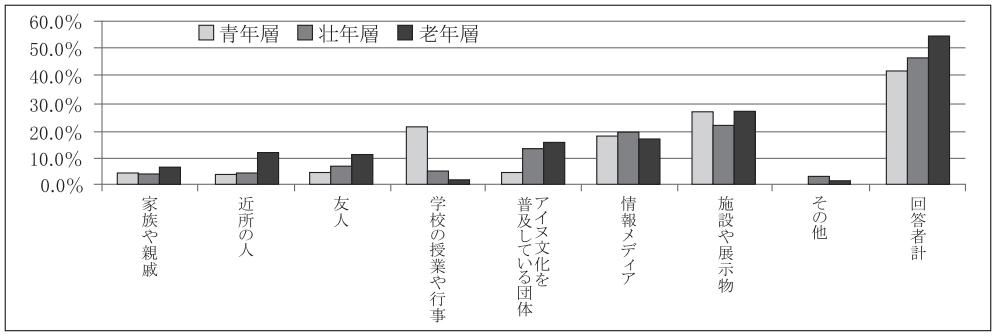


図７－11　アイヌ文化の情報源（和人）(世代別)

以上をみると、全体的にみれば、和人の人々は「施設や展示物」などからアイヌ文化の知識を得ている者が多いものの、世代別の相対的な特徴をいえば、年齢が高い者は、近所や友人などを日常的な生活のなかでアイヌ文化の知識にふれてきた一方で、若い世代では、学校の授業や行事でアイヌ文化の知識を得てきたと整理できるかもしれない。

実際、いくつかのケースの自由回答をみると、世代が高い者において、昔からの近所づきあいや友人関係という形でアイヌの人々とのつながりがあると判断できるケースがみられる。

問７（あなたは普段、アイヌの人たちと交流がありますか）の選択肢７（その他）の自由記述

「昔からの友人づきあい」　（老年層）
「出生地時代からの付き合い」　（老年層）
「昔からの知り合い」　（老年層）
「子どものころからの幼なじみ」　（老年層）
「昔からの付き合いで」　（老年層）
「親の付き合いから続いて」　（老年層）

また、新ひだか住民に対するインタビュー調査（「生活の歩みとアイヌの人々との関わりについてのインタビュー調査」）をみると、

「（静内に引っ越してきた時には）もうとなり近所にいたよ。わかる？昔、こう入れ墨をしていた人。（中略）ここに引っ越してきたらね、ここの裏みんなそうだよ。」　【老年層】

「(調査対象者が小さい頃に、借家をしていて、そこにアイヌの方々が住んでいたのだが、)
その人達とずっとおつきあいしていて、今でもだから、そこのじいちゃん、ばあちゃんもなくなったけれど、子どもさんたちとはおつきあいしていますけれどね。」　【老年層】

という記述がみられた。

さらに、学校（小学校・中学校・高校など）でアイヌの歴史を学んだことがある者を整理したのが表７－12と図７－12（世代別）である。それによれば、全体で26.5%の者が学校でアイヌの歴史を学んだことがあると回答しているものの世代別に大きな違いがみられる。すなわち、「青年層」をみると、58.8%の者が学校でアイヌの歴史を学んだと回答しているのに対して、「壮年層」では30.8%ほどであり、「老年層」では10.3%にすぎないのである。ここからは、若い世代ほど学校でアイヌの歴史を学ぶ機会があったと判断できよう。

さらに、表７－13と図７－13から、学校でアイヌの文化を体験したかどうかを確認しよう。はじめに全体では4.6%の者が学校でアイヌ文化を体験したと回答している。ここからは、学校でアイヌ文化を体験した者はそれほど存在しないと判断できる。

表７－12（図７－12）　学校でアイヌの歴史を学んだか（世代別）

		ある	ない	合計
度数	青年層	47	33	80
	壮年層	53	119	172
	老年層	21	183	204
	合計	121	335	456
割合	青年層	58.8%	41.3%	100.0%
	壮年層	30.8%	69.2%	100.0%
	老年層	10.3%	89.7%	100.0%
	合計	26.5%	73.5%	100.0%

χ二乗値：p値　0.000

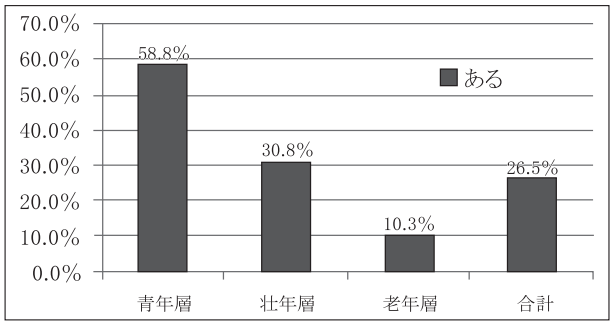


表７－13（図７－13）　学校でアイヌの文化を体験したか（世代別）

		ある	ない	合計
度数	青年層	10	70	80
	壮年層	8	166	174
	老年層	3	204	207
	合計	21	440	461
割合	青年層	12.5%	87.5%	100.0%
	壮年層	4.6%	95.4%	100.0%
	老年層	1.4%	98.6%	100.0%
	合計	4.6%	95.4%	100.0%

χ二乗値：p値　0.000

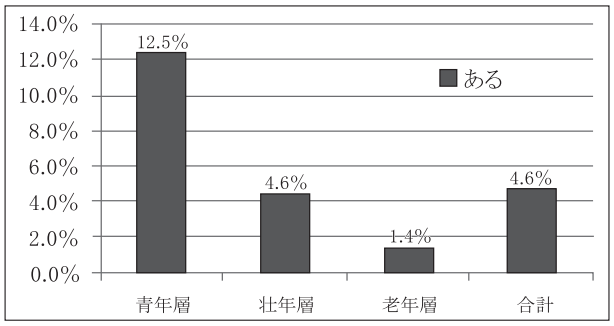


表７－14　学校でアイヌの歴史を学んだか（自由回答）(世代別)

		歴史的事項	文化習俗	見学	その他	忘れた／覚えていない	回答者数	全体
度数	青年層	19	8	2	2	13	39	86
	壮年層	24	6	3	3	8	42	186
	老年層	10	3	1	1	7	19	230
	合計	53	17	6	6	28	100	502
割合	青年層	22.1%	9.3%	2.3%	2.3%	15.1%	45.3%	100.0%
	壮年層	12.9%	3.2%	1.6%	1.6%	4.3%	22.6%	100.0%
	老年層	4.3%	1.3%	0.4%	0.4%	3.0%	8.3%	100.0%
	合計	10.6%	3.4%	1.2%	1.2%	5.6%	19.9%	100.0%
χ二乗：p値		0.000	0.002			0.000	0.000	

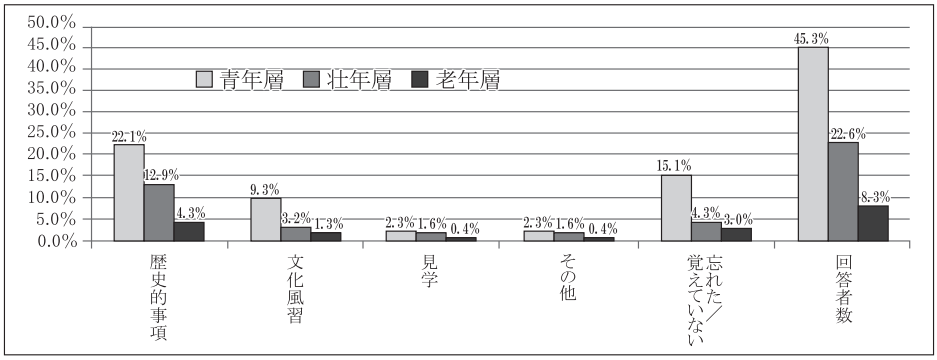


図７－14　学校でアイヌの歴史を学んだか（自由回答）(世代別)

だが、世代別にみると、「青年層」で12.5%、「壮年層」で4.6%、「老年層」で1.4%となっており、若い世代ほど、学校でアイヌ文化を体験する割合が高かったことがわかる[2)]。

こうしてみれば、新ひだかの和人の人々がアイヌ文化を知る経緯には、世代別に異なる特徴があると整理することができよう。

なお、学校でどのようなアイヌの歴史を学んだのかを確認しておこう。表７－14には、学校で学んだアイヌの歴史のうち印象に残ったものをたずねた自由記述の内容を整理してある。それによれば、シャクシャインの乱などの「歴史的な事実」を挙げている者が、アイヌ文化を学んだ事がない者を含めた全体のうち10.6%ほど存在している。また、織物などの「文化習俗」が印象に残っている者が3.4%ほど存在している。ただし、「忘れた／覚えていない」とする者も5.6%ほど存在している。

ここで世代別の特徴をみると、いずれのカテゴリーでも若い世代ほど回答する者の割合が高い。たとえば、「歴史的な事項」では、「青年層」22.1%、「壮年層」12.9%、「老年層」4.3%となっている。また「忘れた／覚えていない」とする者も、「青年層」で15.1%、「壮年層」で4.3%、「老年層」で3.0%となっているのである。こうしてみれば、「青年層」の世代では、学校でアイヌ文化の知識や体験を得ているものの、それを忘れたり、覚えていなかかったりする者もそれなりにみられることがわかる[3)]。

第３節　アイヌ文化の現状と将来

第１項　アイヌ文化の現状

それでは、新ひだかの和人の人々は、アイヌ文化は現在どの程度残っていると考えているのだろうか。表７－15と図７－15をみよう。まず、「かなり残っている」と「ある程度残っている」と評価している者は43.1%（＝5.9%＋37.2%）いる。他方で、「あまり残っていない」と「全然残っていない」

と評価する者は29.1%（＝26.7%＋2.4%）であり、アイヌ文化が残っていると回答する者が多いことがわかる。

しかし、「かなり残っている」と回答する者は少なく、「ある程度残っている」とする者が大半である点には留意すべきだろう。また、「わからない」と回答する者が27.9%と３割近く存在している点にも注意する必要がある。

他方で、アイヌの人々の場合をみると、9.1%の者が「かなり残っている」、59.1%の者が「ある程度残っている」と回答している。その意味で、和人の人々よりもアイヌ文化が残っていると判断している。その代わりに、「わからない」と回答する者がアイヌの人々の中ではまったくみられない。

こうしてみれば、和人の人々は、アイヌの人々と比べて、アイヌ文化の現状について「わからない」と評価する傾向が強いといえよう。その背景には、先に確認したような、アイヌの人々と比べると、そもそも和人の人々がアイヌ文化の知識を知らずまた体験もしていないというアイヌ文化との関わり方があると考えられよう。

この点をふまえて、和人の動向を詳しく確認しよう。表７－16で男女別に傾向を確認すると、女性の方で「わからない」と回答する者の割合が多い。具体的に値をみると、男性では23.0%である一方、女性では32.4%の者が「わからない」と回答している。その代わり、男性で回答する者の割合が高いのは、「ある程度残っている」であり、男性が40.4%である一方で、女性では34.0%の者が「ある程度残っている」と回答している。

表７－15　アイヌ文化はどのくらい残っているか（和人・アイヌ）

		かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
度数	和人	29	184	132	12	138	495
	アイヌ	2	13	7	0	0	22
	合計	31	197	139	12	138	517
割合	和人	5.9%	37.2%	26.7%	2.4%	27.9%	100.0%
	アイヌ	9.1%	59.1%	31.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	合計	6.0%	38.1%	26.9%	2.3%	26.7%	100.0%

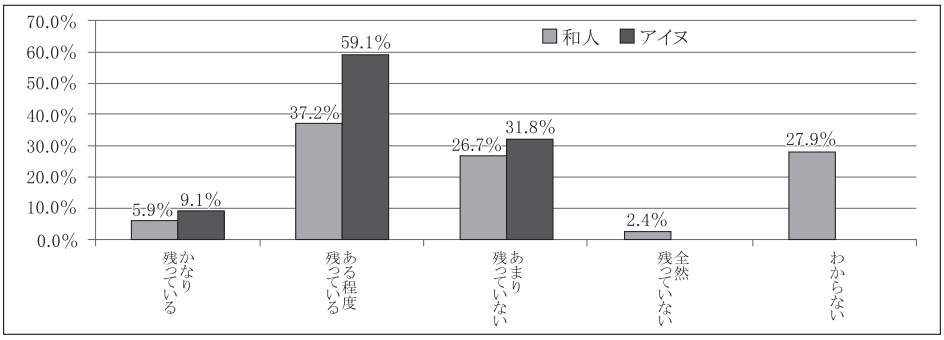


図７－15　アイヌ文化はどのくらい残っているか（和人・アイヌ）

表７－16　アイヌ文化はどのくらい残っているか（和人）（男女別）

		かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
度数	男	11	95	69	6	54	235
	女	18	88	63	6	84	259
	合計	29	183	132	12	138	494
割合	男	4.7%	40.4%	29.4%	2.6%	23.0%	100.0%
	女	6.9%	34.0%	24.3%	2.3%	32.4%	100.0%
	合計	5.9%	37.0%	26.7%	2.4%	27.9%	100.0%

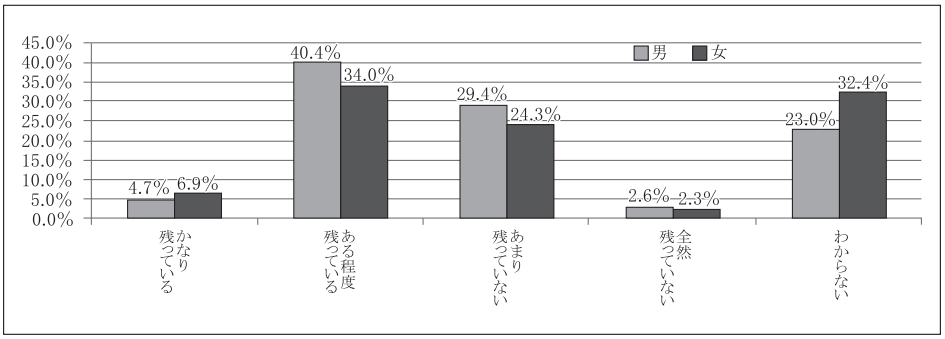


図７－16　アイヌ文化はどのくらい残っているか（和人）（男女別）

さらに、表７－17と図７－17から世代別の動向を確認しよう。そこからは、世代ごとに回答傾向が異なることがわかる。まず、「老年層」をみると、「ある程度残っている」と回答する者が42.2%、「あまり残っていない」と回答する者が20.6%、「わからない」とする者が24.7%となっており、全体の傾向と比べると、やや「ある程度残っている」と回答する者の割合が多い。

次に、「壮年層」をみると、「ある程度残っている」と回答する者が37.0%、「あまり残っていない」と回答する者が33.7%、「わからない」とする者が25.5%となっている。「老年層」と比べると「あまり残っていない」という回答が相対的に多くみられる。このことに起因して、「ある程度残っている」と回答する者と「あまり残っていない」と回答する者の違いがそれほど大きくはみられなくなっている。その意味で、この世代では、残っていると判断する者と残っていないと判断する者とがおおよそ同程度存在している。

そのうえで、「青年層」をみると、「ある程度残っている」と回答する者が22.6%、「あまり残っていない」と回答する者が27.4%、「わからない」とする者が42.9%となっており、もっとも多く回答されているのが「わからない」となっている。

以上をみると、現在アイヌ文化が残っているかという点について、「青年層」という若い世代では、「わからない」という判断が多くみられるものの、「壮年層」という世代では、「残っている」という評価と「残っていない」という評価にわかれており、さらに「老年層」という古い世代では、「ある程度残っている」という評価が多くを占めていることがわかる。その意味で、世代によって、アイヌ文化の現状に対する評価が異なっている。

表７－17　アイヌ文化はどのくらい残っているか（和人）（世代別）

		かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
度数	青年層	1	19	23	5	36	84
	壮年層	3	68	62	4	47	184
	老年層	25	94	46	3	55	223
	合計	29	181	131	12	138	491
割合	青年層	1.2%	22.6%	27.4%	6.0%	42.9%	100.0%
	壮年層	1.6%	37.0%	33.7%	2.2%	25.5%	100.0%
	老年層	11.2%	42.2%	20.6%	1.3%	24.7%	100.0%
	合計	5.9%	36.9%	26.7%	2.4%	28.1%	100.0%

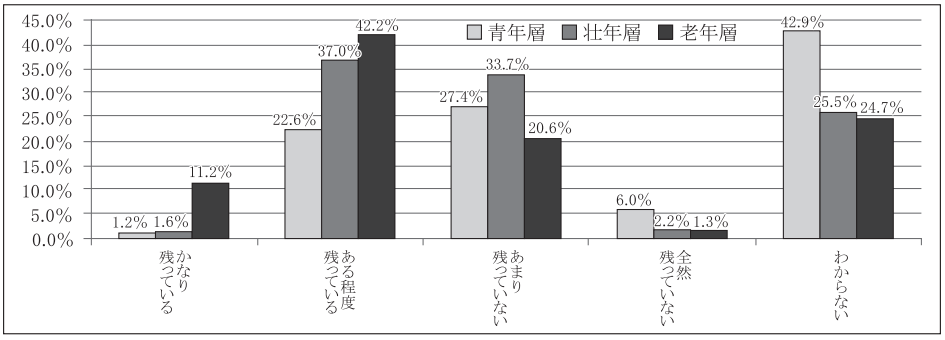


図７－17　アイヌ文化はどのくらい残っているか（和人）（世代別）

次に、世間がもつアイヌ文化への評価について確認しよう。表７－18と図７－18をみよう。もっとも回答する者の割合が多いのは、アイヌの歴史や文化の内容が世間に「あまり正しく知られていない」であり40.6%の者が回答している。また、「正しく知られていない」と回答する者は16.5%であり、正しく知られていないとする者はあわせて57.1%になっている。ここからは、半数以上の者が世間では正しくアイヌ文化が知られていないと判断していることがわかる。ただし、「わからない」とする者も25.9%とそれなりの者が回答している点にも注意を払う必要がある。

他方で、アイヌの人々の回答を確認すると、ここでも「わからない」と回答する者が少ないことがわかる（4.8%）。それゆえ、ここからも、和人は、アイヌ文化の評価について「わからない」とする傾向がみられることがわかる。

続けて、表７－19と図７－19で和人のうちの男女の違いを確認すると、それほど大きな違いがあるとはいえない。だが、「わからない」と回答する者の割合が、男性20.4%女性30.9%であり、女性の方が「わからない」と回答する者の割合が高いという違いがみられる。

さらに、世代の違いを確認しよう。表７－20と図７－20をみよう。そこからは、世代別にみても、基本的には先に確認したような傾向をみてとることができる。すなわち、いずれの世代においても、「あまり正しく知られていない」と回答する者がもっとも多く、さらに「正しく知られていない」と回答する者と合わせると、ほぼ半数を超えているのである。

表７－18　世間がもつアイヌ文化への評価（和人・アイヌ）

		正しく知られていると思う	だいたいは正しく知られている	あまり正しく知られていない	正しく知られていない	わからない	合計
度数	和人	10	75	202	82	129	498
	アイヌ	0	3	11	6	1	21
	合計	10	78	213	88	130	519
割合	和人	2.0%	15.1%	40.6%	16.5%	25.9%	100.0%
	アイヌ	0.0%	14.3%	52.4%	28.6%	4.8%	100.0%
	合計	1.9%	15.0%	41.0%	17.0%	25.0%	100.0%

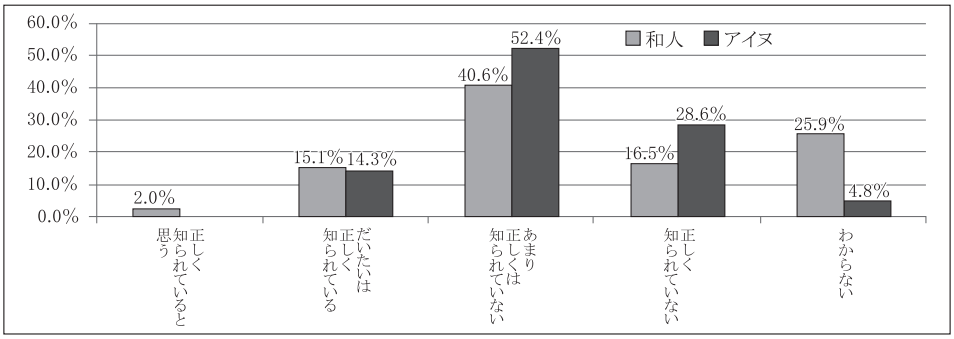


図７－18　世間がもつアイヌ文化への評価（和人・アイヌ）

表７－19　世間がもつアイヌ文化への評価（和人）（男女計・男女別）

		正しく知られていると思う	だいたいは正しく知られている	あまり正しく知られていない	正しく知られていない	わからない	合計
度数	男	3	41	100	43	48	235
	女	7	34	101	39	81	262
	合計	10	75	201	82	129	497
割合	男	1.3%	17.4%	42.6%	18.3%	20.4%	100.0%
	女	2.7%	13.0%	38.5%	14.9%	30.9%	100.0%
	合計	2.0%	15.1%	40.4%	16.5%	26.0%	100.0%

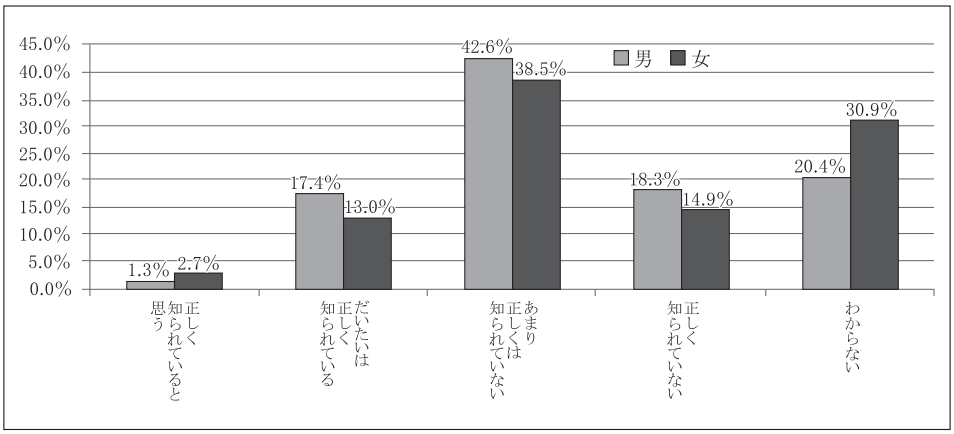


図７－19　世間がもつアイヌ文化への評価（和人）（男女計・男女別）

表７－20　世間がもつアイヌ文化への評価（和人）（世代別）

		正しく知られていると思う	だいたいは正しく知られている	あまり正しく知られていない	正しく知られていない	わからない	合計
度数	青年層	1	7	32	22	24	86
	壮年層	2	23	83	34	43	185
	老年層	7	44	85	26	61	223
	合計	10	74	200	82	128	494
割合	青年層	1.2%	8.1%	37.2%	25.6%	27.9%	100.0%
	壮年層	1.1%	12.4%	44.9%	18.4%	23.2%	100.0%
	老年層	3.1%	19.7%	38.1%	11.7%	27.4%	100.0%
	合計	2.0%	15.0%	40.5%	16.6%	25.9%	100.0%

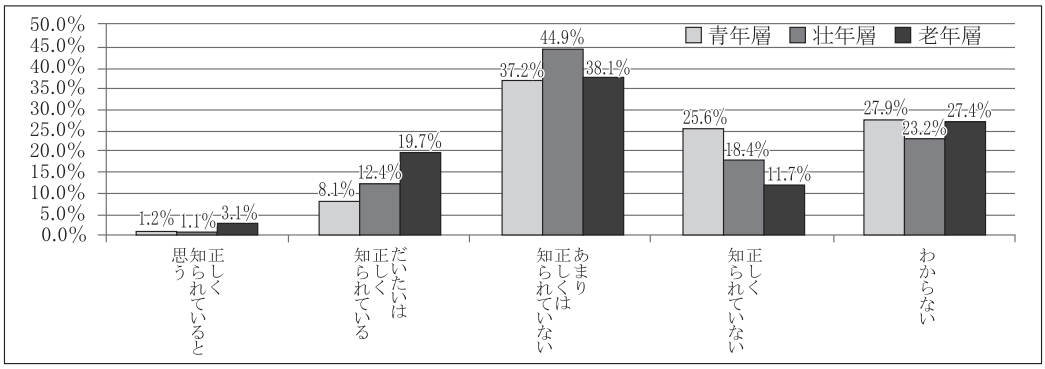


図７－20　世間がもつアイヌ文化への評価（和人）（世代別）

しかし、「正しく知られていない」をみると、「青年層」で25.6%、「壮年層」で18.4%、「老年層」で11.7%となっており、若い世代ほど「正しく知られていない」と回答する者の割合が高い。対して、「だいたいは正しくは知られている」をみると、「青年層」で8.1%、「壮年層」で12.4%、「老年層」で19.7%となっており、年齢が高い者ほど、「だいたいは正しく知られている」と回答する者の割合が高い。その意味で、年齢が低い（高い）ほど、「正しく知られていない」（「正しく知られている」）と回答する傾向がみられる。

第２項　アイヌ文化の将来

それでは、新ひだかの和人の人々は、どのような形でアイヌ文化を後世に残していくべきだと考えているのだろうか。表７－21と図７－21をみよう。そこからは、「日本の国として残すべき」と回答する者が39.3%ともっとも多いことがわかる。ただし、「地域ごとに残すべき」とする者も30.3%と３割程度の者が回答している。さらに、「アイヌの人たちが残すべき」とする者も25.0%と2.5割の者が回答している。

他方で、アイヌの人々はこの点についてどのように考えているのだろうか。同じく表７－21をみよう。だが、そこでは、和人とアイヌの人々では大きな違いがみられない。

続けて、和人の特徴をより詳細にみていこう。まず、表７－22と図７－22からわかるように、男女差は大きくみられない。

では、世代によって違いはみられるのだろうか。表７－23と図７－23をみよう。まず、「老年層」をみると、「日本の国として残すべき」と回答する者が47.0%、「地域ごとに残すべき」と回答する者が27.2%、「アイヌの人たちが残すべき」と回答する者が21.8%となっており、「日本の国として残す

べき」と回答する者が半数近くに上っていることがわかる。

次に、「壮年層」をみると、「日本の国として残すべき」と回答する者が36.1%、「地域ごとに残すべき」と回答する者が32.8%、「アイヌの人たちが残すべき」と回答する者が26.1%となっており、「日本の国として残すべき」と回答する者がやや高いものの、三者それぞれがおおよそ３割程度になっていることがわかる。

加えて、「青年層」をみると、「日本の国として残すべき」と回答する者が26.8%、「地域ごとに残すべき」と回答する者が32.9%、「アイヌの人たちが残すべき」と回答する者が30.5%となっており、「壮年層」と同様に、３つの選択肢がそれぞれ３割程度の回答者を占めていることがわかる。ただし、「壮年層」と比べれば、「日本の国として残すべき」が相対的にもっとも低い回答者の割合である点が異なっているといえるかもしれない。そして、その代わりに、若い世代である「青年層」では「アイヌの人たちが残すべき」と回答する者の割合が相対的に高くなっている。

以上のようにみれば、第１に、全体としていえば、「日本の国として残すべき」とする見解がもっとも多いものの「地域ごとに残すべき」「アイヌの人たちが残すべき」という見解もそれなりにみられ、その意味で３つの見解が併存しているという点、だが第２に、世代別に検討すると、年齢が高いほど「日本の国として残すべき」という見解がみられるものの、世代が若くなるとそうした考えはやや弱くなり、代わりに「アイヌの人たちが残すべき」という見解が強くみられるようになるという世代間の相違も確認することができよう。

表７－21　アイヌ文化の残し方（和人・アイヌ）

		アイヌの人たちが残すべき	日本の国として残すべき	地域ごとに残すべき	その他	合計
度数	和人	117	184	142	25	468
	アイヌ	5	8	6	0	19
	合計	122	192	148	25	487
割合	和人	25.0%	39.3%	30.3%	5.3%	100.0%
	アイヌ	26.3%	42.1%	31.6%	0.0%	100.0%
	合計	25.1%	39.4%	30.4%	5.1%	100.0%

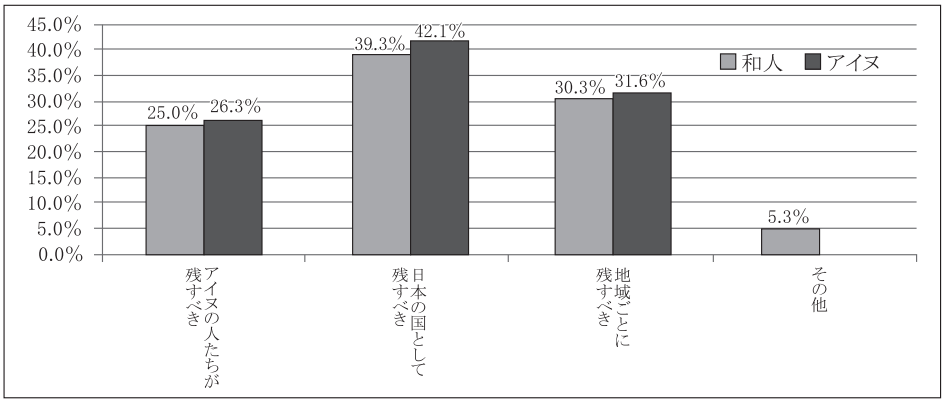


図７－21　アイヌ文化の残し方（和人・アイヌ）

表７－22　アイヌ文化の残し方（和人）(男女計・男女別)

		アイヌの人たちが残すべき	日本の国として残すべき	地域ごとに残すべき	その他	合計
度数	男	55	92	67	12	226
	女	62	92	74	13	241
	合計	117	184	141	25	467
割合	男	24.3%	40.7%	29.6%	5.3%	100.0%
	女	25.7%	38.2%	30.7%	5.4%	100.0%
	合計	25.1%	39.4%	30.2%	5.4%	100.0%

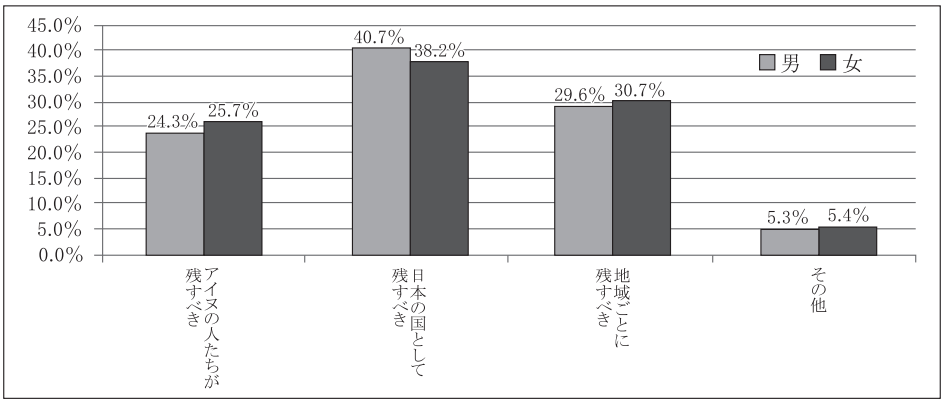


図７－22　アイヌ文化の残し方（和人）(男女計・男女別)

表７－23　アイヌ文化の残し方（和人）(世代別)

		アイヌの人たちが残すべき	日本の国として残すべき	地域ごとに残すべき	その他	合計
度数	青年層	25	22	27	8	82
	壮年層	47	65	59	9	180
	老年層	44	95	55	8	202
	合計	116	182	141	25	464
割合	青年層	30.5%	26.8%	32.9%	9.8%	100.0%
	壮年層	26.1%	36.1%	32.8%	5.0%	100.0%
	老年層	21.8%	47.0%	27.2%	4.0%	100.0%
	合計	25.0%	39.2%	30.4%	5.4%	100.0%
χ二乗：p値						

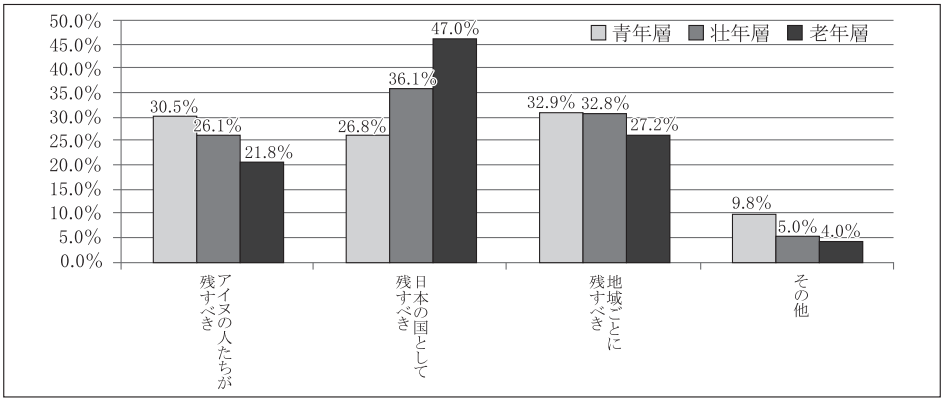


図７－23　アイヌ文化の残し方（和人）(世代別)

なお、若い世代ほどアイヌ文化は「アイヌの人たちが残すべき」と考える背景には、若い世代ほど、アイヌ文化の現状について「わからない」と回答していることが関連していよう。アイヌ文化の現状について「わからない」からこそ、それを「わかっている」(と想定される）アイヌの人々が残すべき

だと考えていると思われる。

それでは、新ひだかの和人の人々は、個人として、将来アイヌ文化と関わろうとしているのだろうか。表７－24と図７－24にそれを整理した。まず、指摘しておくべきは、将来、体験や参加したいアイヌ文化があると回答した者（男女計）は13.0%と全回答者の１割程度しか存在しないという点だろう。そのなかで、体験・参加したいと回答されているものは、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）」の5.1%、「伝統的な料理」の3.4%や「アイヌ語」の2.6%である。しかし、それ以外のアイヌ文化は、１%程度にすぎず、その意味で、多くの新ひだかの和人にとって将来関わろうと考えられているとはいえない。なお、アイヌの人々の動向を確認すると、将来関わりたいと考えている者はいなかった[4)]。

続けて、和人の動向をより詳しくみていこう。まず、男女別に違いはみられるのだろうか。表７－24と図７－24からχ二乗値（から算出できるp値）を確認すると、「海・山・川でのタブーや約束事」や「伝統的狩猟・農法・漁法」で有意であると判断できる。しかし、その他の多くのアイヌ文化に関しては、男女差があるとはいえない。

表７－24　将来、体験・参加したいアイヌ文化（和人）（男女計・男女別）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	男	2	2	0	0	2	6	2	2	7	2	2	9	8	7	1	34	238
	女	3	3	2	0	2	1	0	1	6	2	2	17	0	10	0	32	268
	合計	5	5	2	0	4	7	2	3	13	4	4	26	8	17	1	66	506
割合	男	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	2.5%	0.8%	0.8%	2.9%	0.8%	0.8%	3.8%	3.4%	2.9%	0.4%	14.3%	100.0%
	女	1.1%	1.1%	0.7%	0.0%	0.7%	0.4%	0.0%	0.4%	2.2%	0.7%	0.7%	6.3%	0.0%	3.7%	0.0%	11.9%	100.0%
	合計	1.0%	1.0%	0.4%	0.0%	0.8%	1.4%	0.4%	0.6%	2.6%	0.8%	0.8%	5.1%	1.6%	3.4%	0.2%	13.0%	100.0%
χ二乗：p値							0.039						0.002					

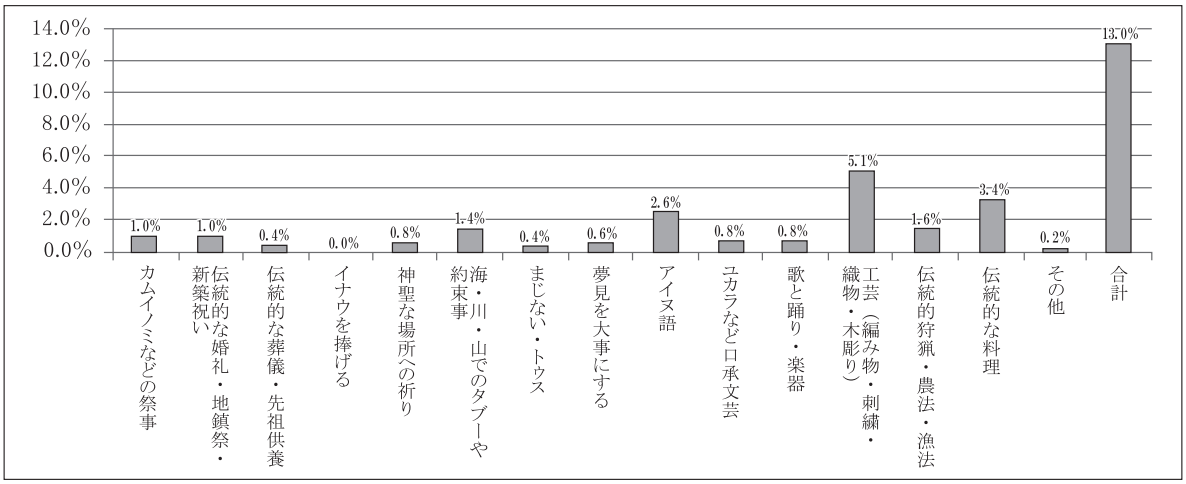


図７－24　将来、体験・参加したいアイヌ文化（和人）（男女計）

表７－25　将来、体験・参加したいアイヌ文化（和人）（世代別）

		カムイノミなどの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数	全体
度数	青年層	1	0	0	0	2	3	0	2	2	1	0	7	2	3	0	10	86
	壮年層	2	1	1	0	1	0	2	1	5	1	2	6	4	5	1	23	186
	老年層	2	4	1	0	1	4	0	0	6	2	2	12	2	9	0	32	230
	合計	5	5	2	0	4	7	2	3	13	4	4	25	8	17	1	65	502
割合	青年層	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	3.5%	0.0%	2.3%	2.3%	1.2%	0.0%	8.1%	2.3%	3.5%	0.0%	11.6%	100.0%
	壮年層	1.1%	0.5%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	1.1%	0.5%	2.7%	0.5%	1.1%	3.2%	2.2%	2.7%	0.5%	12.4%	100.0%
	老年層	0.9%	1.7%	0.4%	0.0%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	2.6%	0.9%	0.9%	5.2%	0.9%	3.9%	0.0%	13.9%	100.0%
	合計	1.0%	1.0%	0.4%	0.0%	0.8%	1.4%	0.4%	0.6%	2.6%	0.8%	0.8%	5.0%	1.6%	3.4%	0.2%	12.9%	100.0%
χ二乗：p値							0.062		0.057									

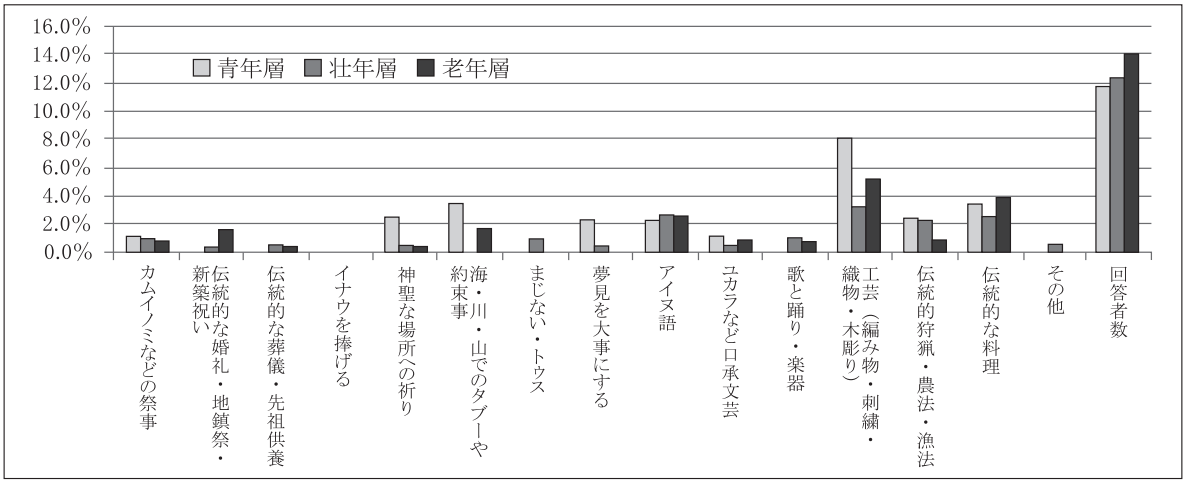


図７－25　将来、体験・参加したいアイヌ文化（和人）（世代別）

では、世代間の差はあるのだろうか。先に確認したように、アイヌ文化の知識や体験については大きな世代間の相違が存在していた。表７－25と図７－25をみよう。しかし、ここでは、世代差があるとはいいがたい。まず、そもそも、将来、体験・参加したいアイヌ文化があると回答する者は、「青年層」で11.6%、「壮年層」で12.4%、「老年層」で13.9%となっており、大きな違いがみられない。

また、個別にアイヌ文化の項目をみても、「海・山・川でのタブーや約束事」や「夢見を大事にする」で有意な違い（10%）があると判断できるものの、その他のアイヌ文化では違いがあるとはいえない。こうしてみれば、将来体験・参加したアイヌ文化があるかどうかという点については、世代間の違いがあるとはいいがたいだろう[5)]。

おわりに

以上、新ひだかの和人の人々がアイヌ文化とどのような関わりを持っているのかを検討してきた。

そこからは、アイヌの人々と比べると少ないものの、新ひだかの和人のおおよそ半数の人々がいずれかのアイヌ文化の知識を得ていることがわかった。また、そうした知識は、世代が高い者ほど得ていた。さらに、実際にアイヌ文化を体験している者に関しても、世代が高い者ほどそうした体験をしていた。ただし、アイヌ文化を実際に体験している者は１割程度にすぎなかった。

こうしたアイヌ文化の知識と体験は、多くの場合、アイヌ文化に関する施設や展示物から得られていた。アイヌの人々が家族や親族などの「パーソナルな」経路から知識を得ていたのに対して、和人の人々は、そうした施設などの「フォーマルな」経路から知識を得ていたのである。しかし、和人のうち世代別の特徴をみると、若い世代では学校においてそうした知識や体験を得ていた一方で、年齢が高い者は近所や友人関係など日常生活においてそうした知識や体験を得ていた。ただし、学校で得た知識に関して、忘れてしまっている者や覚えていない者もそれなりにみられた。

アイヌ文化が現在残っているのかという現状評価に関しては、ある程度残っていると回答する者がもっとも多かった。しかし、アイヌ文化の現状について「わからない」と回答する者も多くみられていた。その点は､アイヌの人々が「わからない」と回答する者がいなかった点をふまえると和人の人々の特徴といえる。そのうえ､和人の若い世代ほどアイヌ文化の現状を「わからない」と回答してもいた。さらに、将来的にアイヌ文化を体験したいかといえば、そうした体験をしたいと回答した者は１割程度にすぎなかった。それは世代別にみても同様にみられた。

以上をふまえれば、第１に、アイヌ民族多住地域においても和人は、アイヌ文化にそれほど関わりがあるとはいえないということがわかる。たしかに、新ひだかの半数の人々は、アイヌ文化の知識を知っていた。しかし、実際にアイヌ文化を体験した者は１割程度しか存在しないのである。さらに、将来的に、アイヌ文化と関わりたいと考えている者も１割程度しか存在しない。こうした点が、アイヌ文化に関する多くの施設や行事がある新ひだかにおいて当てはまるという点は強調しておいてよいだろう。

ただ、こうした点は、アイヌの人々においても当てはまるといえる。なぜなら、アイヌの人々のうち半数程度がアイヌ文化の知識をもっていたものの、実際にアイヌ文化を体験した者は２割程度にすぎないからである。その意味で、和人やアイヌにかかわらず、アイヌ民族多住地域である新ひだかの住民がもつ特徴といえるのかもしれない。

とはいえ第２に、和人の人々は、世代が若くなるにつれ、アイヌ文化の知識も知らずそれゆえ体験もしたことがない者が多くなっていることがわかる。そして、その結果として、若い世代ほどアイヌ文化の現状について「わからない」と回答する者が多くなり、さらにはアイヌ文化は「アイヌの人が残すべき」と回答する者が多くなっていると考えることができる。たしかに、若い世代ほど学校を通してアイヌの歴史や文化に接する機会は増えていた。しかし、そうした経験は、忘れ去られたり覚えていなかったりしていた。その点をふまえれば、アイヌ民族多住地域である新ひだかにおいてすら、今後アイヌ文化への関心がより一層もたれなくなっていく可能性があるだろう。

こうみれば、アイヌ民族多住地域である新ひだかにおいて、アイヌ文化は、和人の生活にとってそれほど関わりがあるものではなく、今後さらにその関わりが弱まっていく可能性すらあると判断せざるをえないだろう。

注

１)なお、ここでも男女差はみられない（表略)。

２)なお、学校でアイヌの歴史を学んだか、学校でアイヌの文化を体験したか両者ともに、男女差がみられない（表略)。

３)学校で体験したアイヌの文化についても自由記述があるが、回答数自体が少ないのでここでは

割愛する。ただし、「忘れた／覚えていない」者が相対的に多く、そして若い世代ほどそうした回答をする割合が多い。

4)ここで、アイヌの人々のなかで、将来アイヌ文化に関わりたいと考えている者がいない背景については、いくつかの可能性が考えられよう。まず、第1に、もうすでにそれなりにアイヌ文化を体験しているために将来新たに体験・参加したいとは考えていないという可能性があるかもしれない。また、第2に、アイヌであるであることを「隠したい」と考えるために、もしくはアイヌ性から「中立的」でありたいと考えるために（→こうしたアイヌの人々のアイヌ性については小内・長田（2012）を参照のこと）、将来新たに体験・参加したいとは考えていないかもしれない。さらに、第3に、ここでの対象者をみると（→付表）、アイヌの人々は、和人の人々と比べると高年齢の者が多いためという可能性も考えられる。一般に、年齢が高いほど、アイヌ文化に限らず新しいことにチャレンジしにくくなると考えられる。そうした点が、アイヌの人々のなかで将来アイヌ文化に関わりたいと考えている者がいない点の背景にあるのかもしれない。

付表　アイヌ性×年齢

		青年層	壮年層	老年層	合計
度数	和人	86	186	230	502
	アイヌ	3	5	14	22
	合計	89	191	244	524
割合	和人	17.1%	37.1%	45.8%	100.0%
	アイヌ	13.6%	22.7%	63.6%	100.0%
	合計	17.0%	36.5%	46.6%	100.0%

5)ここで、将来体験・参加したいアイヌ文化について、世代差がみられない点については、（注4でも言及したように）一般に、年齢が高いほど、アイヌ文化に限らず新しいことにチャレンジしにくくなるという点が関係しているだろう。すなわち、こうした点が、アイヌ文化の知識・体験で世代差がみられたのに対して、将来体験・参加したいアイヌ文化について世代差がみられないことの背景にあると思われる。

参考文献

松本和良・江川直子編, 2001,『アイヌ民族とエスニシティの社会学』学文社.

小内透・長田直美, 2012,「アイヌとしてのアイデンティティの形成と変容」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その2　現代アイヌの生活の歩みと意識の変容――2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 169-81.

（上山浩次郎）